

再生

師友道友の活動を綴る善行伝承誌

人間の一世代おもへばおのがじし

負ひ来し「業」を果さむとする

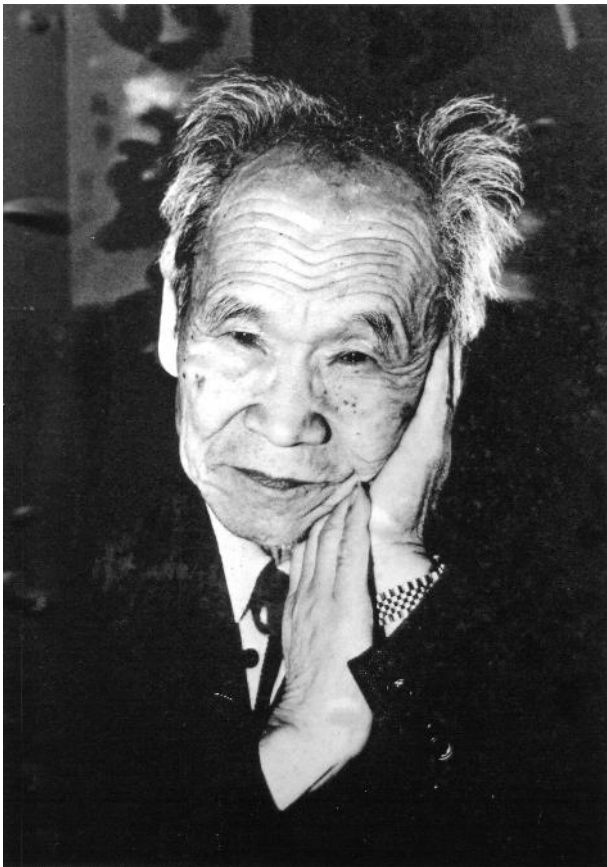
森信三先生あいうえお語録より

第0024号

2018.8月号

実践人福岡仁風読書会

再生の題字（森迪彦様提供）は、森信三先生の直筆です。



写真提供：浅井周英先生

立腰教育入門

森 信三先生 講述

七 子らに告ぐ——性根のある人間になろう——

決心をつらぬく人間に

われわれ人間は、良いことを聞いたり読んだりしたら、できるだけそれを実行する決心をするようではなければダメですね。そして実行するには、すぐ始めなければダメですね。

ところがです。それほど深く決心して、すぐ始めた人でも、実際にはなかなか続かない場合が少なくないわけです。否、そういう場合のほうが多いと言ってもよいでしょう。

そもそも「一たん決心した以上、必ずやりぬく人間になる」ということは、われわれ人間が、人間として一番大切な根本的な心がけでありまして、もしこの一つが守られなかったら、その人のすることは多くは中途半端で、リッパに仕上がるということが少ないからであります。ですからそういう人は、やがて世の中へでてからも、人から信用されないわけですから、この「一たん決心した以上は、必ずやり抜く人間に！」ということは、われわれ人間が社会の一員として生きてゆく上で、いわば土台になる一番大切な事柄だと言ってよいでしょう。

腰骨を立てる

では、そのように「一たん決心した以上は、必ずやり抜く人間」になる秘訣は「一たい何か？」という点について、一つお話ししてみたいと思います。

それはどういふことかと申しますと「つねに腰骨を立てている人間になる」ということであります。ところが、このように申しても、皆さんがたには、一こころピンとはひびかないでしょう。けれども、実際問題として、人間が一たん決心した以上、必ずやり抜く人間になるには、そのために一ばん根本の心がけとしては、けつきよくこれ以外にはないと思うのであります。現にかくいふわたくし自身も、ちやうど皆さん方と同じ年ごろに、この腰骨を立てるといふことを始めたのであります。こととして七十年もつづいてるわけですが、今日までわたくしが、一たん決心した以上は途中でくじけずに、どうにか物事

実践人福岡仁風読書会

場 所：福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 仁風庵にて

(実践人の家の会員であれば何方でも参加できます。参加費無料)

詳細は、世話人へお問い合わせください。

をやり抜ける人間になれたのは、ひとえにこの「腰骨を立てて来た」おかげだと思っております。

では一歩進めて、そのようにつねに腰骨を立てていたら、どうしてそんなに意志の強い人間になることができるのでしょうか。しかしこの点について説明することは、なかなかむずかしい問題でありまして、けつきよくそれは実行することによって、しだいに「ナルホド」とうなづけるような生きた真理なので、つまり実行しない人に対して、そのわけとか理由を分らすということは、実はできない相談なのです。というのは、もしここに砂糖というものを、まだ一度もなめたことのない人があったとして、そういう人に砂糖のあまさというものを、口で説明するだけで、相手に分らすことのできる人があるでしょう。わたくしには、そういう力がないばかりか、そういうことのできる人はまづは無かるうと思っております。

ということとは、世の中の深い真理というものは、あるていど実際にやってみないことには、その深い意味は分らぬものだからであります。

心身相即の真理

「この「つねに腰骨を立てる」ということは、実はわたくしがはじめて言い出したのではなくて遠いむかしから、心ある人びとによって深く信じられ、かつ実行せられ、人から人へと伝えられて来た、すぐれた人間の鍛錬法の一つなのであります。

ではどうしてむかしから、そんなに腰骨を立てることが重んじられたかと申しますと、われわれ人間というものは、体をシャンと立てていますと、心もしぜんにしっかりしてくるからであります。ですからわれわれ人間は、横になつていながら「自分も何とかしてシャンとした人間になりたいものだ——」などと考えているより、まず起き上がつて、体をシャンと立て、とくに背骨を真直に立てれば、心もしぜんにシャンとしてくるのであります。

女子教育 前号からの続き

更に、読書指導に力を入れ、父兄から五十銭宛もらって学級図書館をつくった。参観に来られた横山さんから、特別に二円いたいたのは感激だった。みなさんはさかんに読んでくれた。私の図書館教育の源はこの時であろうか。私は続いて書道をやっていたので、この時子どもといっしょに「仮名」のけいこをした。四時から五時まで、希望者は教室でだまつて私ともいっしょにする。五十分たつ頃私はけいこをやめて、子どもの添削をする。ちょうど一時間片付けを終つて、子どもといっしょに校門を出、西と東に別れて帰つた。おかげで子どものノートは、ますますきれいになり、父兄からも大へん喜ばれた。次の組を受持つた時、私の組になった弟に、入学式から帰つて受持をきいた姉に「岡部先生から習うなら、りっぱに書かにおかしいばい。」と言つて、入学時から家庭教育が始まつたという話もきいた。

裁縫科はりっぱな倉地先生が教えられた。茶道華道も免許を持たれ、手芸もうまかつたので、婦道全般、この先生の力によるものが多かつた。先生がこう言われたことがある。

「裁縫で型紙を作るのに、他の級は何時間もかかつて予定通りに行かない。先生の級は一回でびしやりできる。習字のおかげでしょうか。」

女子の教育には特に繊細な修練が必要と思う。

現在の婦人運動とは、まるでちがつた「女の道」だった。間違つていたのかも知れない。間違つていなかったのかも知れない。今この方たちも幸福な家庭を築かれ、PTAのお世辞もよくされ、その時折いたたく通知文などたいていの女学校出身よりよっぽど上手にかけているので、女の先生など驚いていられる。

女は女、やさしい母性愛こそ、女の道ではなからうかと今でも私は考えている。

特殊教育

高等科も男女とも受持つてみて、学校の行き方も一応方向ができたので、あとはまた、男子組をくりかえし二回受持つた。

私は随分、子どもたちを錬つた。併し、その半面、子どもの身になって、子どもと親しくすることに努めた。むしろ、ほんとうは、子どもの将来を真剣に考えてやつたつもりである。

石丸君と長沼君と、小学校で扱いかねた子が揃つて入学してきた。両名とも、家庭がよく、頭も相当なものであつたが、腕力は人並すぐれ意欲十分な

子たちで、我がままも強く、弱い者いぢめなど平気なものであつた。私も一学期間位閉口したようだが、何とか物にしなければならぬと、特に親しくなることに心がけ、思ひきつて石丸君を級長にして全責任を持たせた。同君は感激して、級長の任務をよく勤め、特に統率力は抜群であるために、学級のまとまりも急によくなつた。二人はその後勉強にはげむようになり、そろつて福岡農学校に合格した。子どもを尊重し、気心を合わせてやり、信頼をかけると、子どもは発憤して、従来のみならず、むしろ積極的な善行為になり、近郷一の働き者になるということがわかつた。また若いので、今に大を成すだろうと十分期待される。

私はまた、目立たない子を救い上げることと考えて、特殊学級をつくつた。それは、三並、東小田、中牟田の三校のそれぞれ成績の低い人から五人宛選び計十五人と、そのほかは平等に人員をわけて学級をつくつてみた。気の毒な人の味方になろうと考へていた。学級の三分の一は初遅れた人たちだったが、後には、そんな感じが全然なくなり、伸び伸びとして卒業していった。今になつてこれらの人のお子さんが小学校に来ていられるのを見て、とても優秀な子が居るのも驚きであり秘かな喜びである。

世の中に、低能というのはそうたくさん居るものではなからう。大ていは何かのほすみに世の下積みになつて一生を送る気の毒な人たちであるまいか。特別な欠陥のない限り見捨てることなく、救い上げて行くことこそ真の教師の任務ではなからうか。私の場合は一般の学級の中で行つたところに特色があつたが、今、特殊学級がつくられて来て大いに成果が期待される。

私は生徒と親しくなるために、宿直の夜は三人宛、米を持参させて合宿した。夕方から学校の側の曾根川に魚取りにいつた。私は全然魚がつかめないが、子どもは大てい手づかみで捉え、上手な子は両手に握つて取つて来るのに驚いた。これは素質であろうか。環境であろうか。或いはその両方であろうかと考へたりした。その魚に、実習の野菜でおかずを作つて舌鼓をうち、風呂に入つては、背の流し合いをした。十時迄、勉強をして床についた。交替で宿るのが楽しみであつたが、子どもとの呼吸がぴったり合うような気がした。寄宿舎訓練のない学校の代策である。

「おれたちが、わるそしたつちや、おごらつしやれちやつたの。」と同窓会の席で話が出る。子どももいたずらは余り責めないことにしていた。

「ことわりは、俺がいつてやる。」

と受け合つていたので、かえつてあまり心配かけるほどのいたずらはしなかつた。ただ、約束を破つたり、積極的にくすぐずしている子だけは徹底的にしめ上げた。そんな時も、自分も必ず生徒と一しよにつぐないをした。

日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 296 回

博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前 6 時 15 分～

【第一回】平成 5 年 12 月 8 日開催

福岡実践人・JR九州博多駅
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 **ハウスマイト**



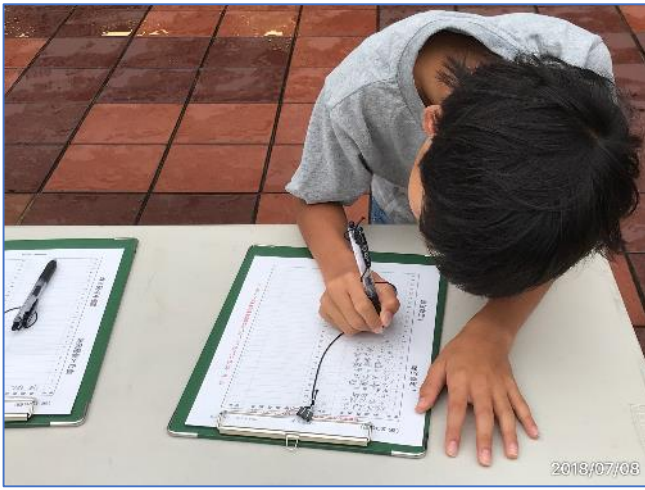
第296回 博多駅早朝清掃

7月8日(日曜日)

77名参加



2018/07/08



菅刈公園早朝清掃に参加させていただきました

7月10日(火曜日)



第102回 冷泉公園早朝清掃

7月1日(日曜日)

ひとつ
拾えば
ひとつだけ
きれいにな
る

Since 1993
日本を美しくする会

鍵山泰三郎



2018/07/01



2018/07/01



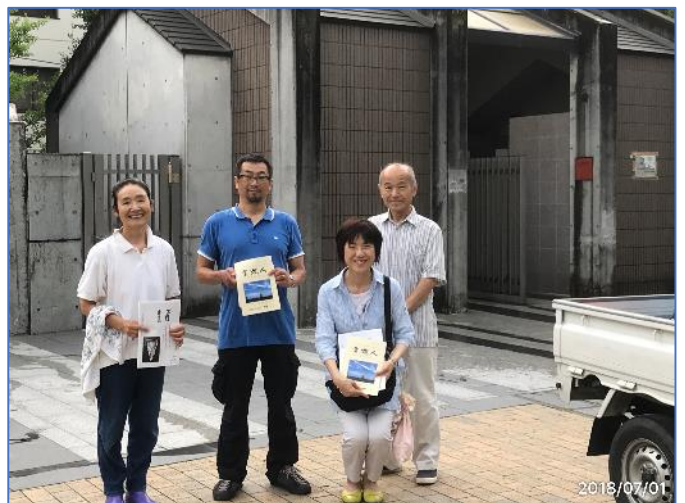
2018/07/01



2018/07/01



2018/07/01



2018/07/01

モネが天才画家であったことは、誰もがよく知っています。でも、モネが大変ユニークなガーデンデザイナーだったことは、それほどよく知られていません。魅力的な睡蓮の池をデザインする才能があったからこそモネは、印象派の巨匠になれたのです。—とは、ガーデン愛好家のつぶやき・・・。

古来、あらゆる芸術のお手本は、偉大なる自然であったわけで、時々刻々とその表情を変ええる美しいガーデンの存在は、モネにとつて何百人の美女にも勝る絵の題材であったらうと思われまます。

ジエフロワ（美術評論家）

モネの手紙より（六八歳）

私が仕事に夢中になっているのをわかってください。この水辺の風景、そしてそれから生れる光沢に私はとりつかれているのです。

それは、私の老いた力では手の届かないもの、それでも私は自身が強く感じるものを捕らえようとしています。私はそれを壊し、また構築します。そして多くの努力で何が生まれるのであろうことを願っているのです。

モネは一八八三年にジヴェルニーへ引越してくる。しかし当初は家も敷地も賃借したものであった。移住から七年後の一八九〇年に買い取る。さらに、その三年後に彼は道路と鉄道の線路を挟んで隣り合う土地を購入して、そこに、このあまりにも有名な池を造ったのである。そして、池では睡蓮を育て、その上に、日本をイメージした太鼓橋を架けた。

モネは、ここに池を造るにあたって、一つの面倒を乗り

越えなければならなかった。それは、水利に関する古くからの取決めである。農家にとつて水は正しく命であり、彼らは、たった一つの井戸を巡つてさえ苛烈な闘争を繰り返してきた。そのような歴史を背景にできあがったものが、農業に利用されている。水路は土地の所有者であつても現状を変更してはならない、という掟であつた。モネは、セーヌ河の支流エプト川から枝分かれするリユ川を塞ぎ止めて池を造つたのであるが、その際、地方行政官に許可を求める嘆願書まで提出しなければならなかったのである。

その中では、この池は「目を楽しませることのみ、そして絵のモチーフを得ることのみを目的とする」と述べられている。そして池は、確かにその後の制作に尽きることなくモチーフを提供し続けたのである。もちろん、日本風の橋も数多くの作品に描かれた。

この橋が架けられた一八九五年に三点、一八九九年から翌年にかけては少なくとも十八点が制作された。後者の連作では、池の水面を覆わんばかりに育った睡蓮が描かれている。

そして、ここを出発点としてモネは膨大な数の睡蓮の絵を描き始めた。日本趣味を強く反映する睡蓮の池は、モネ後期の最大のモチーフとなり彼が一九二六年の死の時まで描き続け、現在ではパリのオランジュリー美術館に収められている大壁画はその集大成であつた。ともあれ、こうしてモネは私的な理想の楽園の所有者となつたのである。

四季折々に、彼と祝福するかのように花々が咲き、

木々の華が色づく。そして屋敷の部屋ごとに、愛好する日本の浮世絵が飾られた。それまでの苦難が嘘のような後半生の四三年間、この館と庭は、巨匠に無限のインスピレーションを与え続けたのである。

モネの庭より 婦人生活ベストシリーズ

発行 婦人生活社 平成九年一月五日
阿部 信雄 解説



二〇一八年七月二三日

広葉の林を育てる会

興膳 丈治



再生八月号

平成三十年八月八日発行 (毎月一回八日発行)

創刊 平成二十八年九月一日

発行人 富吉袈裟右衛門

8 月の活動予定表								9 月			
日	4	5	8	17	18	25	26	1	2	8	13
曜	土	日	水	金	土	土	日	土	日	土	木
行事活動名	福岡空港ミリオン清掃 第3回	冷泉公園トイレ磨き&「ミ」拾い 第103回	博多駅早朝清掃 第297回	菅刈公園早朝清掃	実践人の家 全国研修会 第一日目	実践人の家 全国研修会 第二日目	仁風読書会・実践人福岡・福岡掃除に学ぶ会・合同幹事世話人会	福岡空港ミリオン清掃 第4回	冷泉公園トイレ磨き&「ミ」拾い 第103回	博多駅早朝清掃 第298回	菅刈公園早朝清掃
場所	福岡空港	冷泉公園	博多駅筑紫口	東京都	ホテルウイスキオ尼崎	ホテルウイスキオ尼崎	糟屋郡志免町 仁風庵	福岡空港 周辺二万m	冷泉公園	博多駅筑紫口	東京都
開始時刻	7時	6時30分	6時00分	5時30分	12時	7時	9時	7時	6時30分	6時00分	5時30分
運営団体	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	鍵山事務所	実践人の家	実践人の家	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	鍵山事務所

発行人(編集人) 富吉 袈裟右衛門

- ◇福岡掃除に学ぶ会/日本を美しくする会
- ◇実践人福岡仁風読書会/福岡実践人
- ◇楽農人/仁風自然塾

〈合同事務局〉 〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 <<仁風庵>>

TEL 092-931-8155(掃除) 931-8150(読書) FAX 092-931-8120

E-mail fukusukai@souji.link (掃除) dokusyo@kesajin.link (読書)

contact@rakunoujin.com(農業)



「再生」に掲載している写真は、富吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。